

「そのようね」アンリが腕を組んで同意した。「私の記憶とも一致するわ」

シンジロウがうなずいた。ここからが本番だというように、ペンの尻でこつこつボードを叩いた。

「それじゃ、到着順だ。まずサトシくんは何時頃ここに来たの？」

「十一時です」サトシが即答した。「予定通りの到着で、真っ直ぐ建物に入りました。入った後、時間を確認しましたから間違いありません。そこで、配電盤のスイッチが一部オンになっていたので発見しまして。誰か先に来たか、関係ない人が来てしまったか確認する必要があります。それでこの部屋の鍵を開けた後、建物の中を一階から順に見て回っていたんです。ちなみにそのとき、あのキャスター付きの椅子はカウンターの内側にありました」

「なるほど。リヨウコさんは？」

「ベンチに座ったのは九時半頃です。しばらく座っていました。十時には建物に入っていたと思います」

「それからまた出たんだよね？」

「ええ。入って地下に降りて、ドアが閉まっているのを見て、外に出ました。二十分くらい……たぶん十時半には、また中に入って歩き回りました。サトシさんが来たときは喫煙所の中にいたと思います」